

scene 1
動作

ママがどこへ行っても あとを追ってついていく

赤ちゃんからほんの少し離れるだけでも、ついてくるようになります。



ママと自分との関係を学んでいる

ママのあとをハイハイで追う赤ちゃん。ママがとなりの部屋に行って、見えなくなると大声で泣きます。これでは、トイレにもゆっくり行きません。

「産くらから始まるあと追いは、ママへの愛着の表れですが、いままでは平気だったのに、なぜ急にこれほどまでに離れるのをいやがるようになるのでしょうか。

それまでの赤ちゃんにとって、ママは自分と一心同体のようなものでした。それがだんだんと、自分とママは別の人間であって、自分のそばから離れる

こともあるのだと気づいたのです。離れてもまた自分のところに戻ってくるのが、まだ理解できないので、離れると不安でいっぱいになってしまいます。

と追いは、いつまでも続くものではありません。あ。「ママは必ず戻ってくる」「ママはどんなときも自分を見守っていてくれる」という関係性がわがると、自然と卒業します。

離れるときには「すぐに戻るからね」、戻ってきたら「さみしかった？ もう大丈夫よ」と声をかけるようにしましょう。トイレなら、なからママの声が聞こえていると少し安心できるようです。

追われるのがいやだからといって、こっそりいなくなると、赤ちゃんの不安を大きくさせるので、逆効果です。

scene 1
動作

ママをちらちらと見ながら イタズラをする

ママの近くにいるのに、背中を向けてなにかに夢中だったら要注意です。



人の気持ちが読めるようになってきた

引き出しをあけて洋服を引っ張りだしたり、テーブルの上のものを落としたり、ゴミ箱をひっくり返したりと、赤ちゃんは成長するにつれて、イタズラを楽しむようになってきます。イタズラするときには、なぜか、ママのほうをちらちらとかがっているようです。

「ママはびっくりするかな？」「怒るかな？」と、ママが困ることや、怒るぎりぎりのイタズラをしながら、ママの反応をうかがっているのです。

だから、気がついてくれるように、わざとママから見えるところでやります。ママが自分に注目して

くれて、「きゃー、だめでしょ」「○○ちゃん、やめて〜」と反応するのが、うれしくてたまらないのでしょうか。

イタズラをするということは、人の気持ちが読めるようになってきた証拠でもあります。イタズラやうそ、ごまかし、からかいなどは、感情が豊かになり、成長して知恵がつかないときできないこと。成長途中の赤ちゃんにとって、「悪いこと」とかんたんに判断できるものではありません。

「おっ、なかなかやるじゃない」と、おらかな気持ちで接していきましょう。

イタズラもコミュニケーションのひとつ、とらえましょう。たまには、ママもおもちゃ箱をひっくり返してみたり、イタズラを返してみてもどうでしょう？